

子ども科学教室

活動場所：佛教大学コミュニティキャンパス北野拠点施設 ゆいま〜る

活動時期：平成 28 年 4 月〜

発表団体

わくわく研究室



連携メンバー

北野商店街振興組合
佛教大学社会連携課

活動内容

「わくわく研究室」は、地域の子どものための放課後の居場所作りをしたいと考え、月に一度、北野商店街近隣の小学生を対象に、佛教大学コミュニティキャンパス北野拠点施設 ゆいま〜るを拠点に理科の実験教室を行っている。今年度の取組は以下のとおり。

【実験実施内容】

- 7月24日（月）「空気の不思議大発見」
～空気砲・糸電話と針金電話比べよう～
- 9月29日（金）「作ってみよう！みんなのとりこのアイス」
- 10月28日（土）「触れる水・人口イクラを作ろう」

【今後の実験予定】

- 11月 子ども科学教室（いろいろな液体のPH）、
- 12月 静電気と電気くらげを操ろう、クリップモーター作成
- 1月 身近な材料を用いた使い捨てカイロ作成、
- 2月 化石のレプリカ作り 三葉虫編
- 3月 大好評の実験をもう一度

取組の成果・活動で工夫した点

- これまで実験に参加する子どもたちには、大人用の大きなサイズの白衣やメガネをつけてもらっていたが、今年度は、「学まちコラボ事業」での支援金により子ども用の衣装を購入することができたので、子どもたちも動きやすく「わくわくした気持ち」で実験することが出来るようになった。
- これまで予算的にできなかった実験もできるようになり、内容が充実した。
- 今年度より参加者全員に保険に加入していただき、安心して実験が行えるようになった。（内容も精査し安全な実験を実施している）
- 最近では、地域の方々が子ども科学教室をのぞいて声をかけていただけることが多くなり、地域のお店などでも広報活動に協力していただけることが増えたことで、地域との連携を強く感じるようになった。

連携メンバー・役割

北野商店街振興組合	本事業の実施にあたり、地域の方への広報活動の協力
佛教大学社会連携課	実験実施場所として「ゆいま〜る」等の施設使用の調整

今後の課題・目標

◆今後の課題

- ・ 今後は児童だけでなく、地域の大人の方の参加も増やし、老若男女が集う場としたい。そのためには、ゆいま〜るに留まらず、小学校や子ども文化会館等地域の施設等での活動も検討していきたい。
- ・ 広い世代が興味・関心を引く実験をするためには、子ども向けの実験だけでなく、若い世代向けの実験にも挑戦する必要がある。
- ・ 現在、当日参加も可能にしているが、材料や実験器具が足りない事態が起こりうる。とはいえ、事前応募の方のみ参加可能にすると、参加者が集まらないことも考えられる。今後、応募方法の改善も課題となっている。

◆目標

子ども科学教室をさらに地域の居場所として根付かせるために、休日には子どもだけでなく高齢者も対象にした科学実験教室を行いたい。実験の際には、実験班の組み合わせを工夫し、高齢者と子どもが密接に交流できるものにする。また、高齢者と子どもの繋がりを強化するため、まず学生が高齢者に実験方法を教え、それを高齢者の方が子どもに教えることで、高齢者が子どものための科学博士となるサイクルを作りたい。地域との連携としては、商店街と協力し、地域への広報や実験材料の調達を行い、商店街の方々と学生が協働で開催することを今後の目標とする。



関連 WEB サイト：ふれあいの町きたの（北野商店街振興組合）<http://kyotokitano.com/>